

コロナ禍の影響を受ける桑名市の方々への食品配布事業 2021

桑名女性ネットワークは、NPO 法人フードバンク愛知（※1）様により、2021年8月から10月の期間、約8.5トンのお米等食品をご提供頂きました。

そのお米等食品は、コロナ禍の影響を受ける桑名市の学童、高校生・大学生・専門学校生等の学生、外国籍の方々、ひとり親世帯、福祉施設、生活困窮世帯等へ、無償で届ける2回の事業にて、3か月で1500人以上の方へ配布いたしました。

本事業において、桑名女性ネットワーク は、桑名市・桑名市教育委員会様に多大な御協力を頂き、行政連携による、「コロナ禍で影響を受ける方々への支え合い」を行うことができました。

（※1）商品として流通できない食品や、賞味期限が近い食品を、生活の支援を必要とされる方々や、地域の子ども達等へお届けすることでフードロスを無くす活動を行う団体。

■ 《コロナ禍で影響を受ける桑名の子ども達へお米を配布する事業 2021①》

第1回目／約4.6トンのお米を配布 2021年9月17日（金）～9月24日（金）

<https://icreatework.net/foodpantry2021-01>

2021年9月、緊急事態宣言が発令される中、全ての学校が休校状態となり、公共施設も稼働停止、厳しく行動制限されました。

この状況下で、NPO 法人フードバンク愛知様より、桑名女性ネットワークへ、約4.6トンのお米を提供いただくことになり、桑名市様と協力した事業を始める準備を行いました。

配布対象を、「コロナ禍の影響が大きい子育て世帯」と定め、「学校を通じて小学生・中学生へ配布できないか」と、桑名市様と協議。子育て世帯の渡辺仁美 桑名市議の意見も頂きながら、準備を進めました。



大量のお米を各施設へ配送する作業は、桑名市の職員さんと桑女Nスタッフで行った。

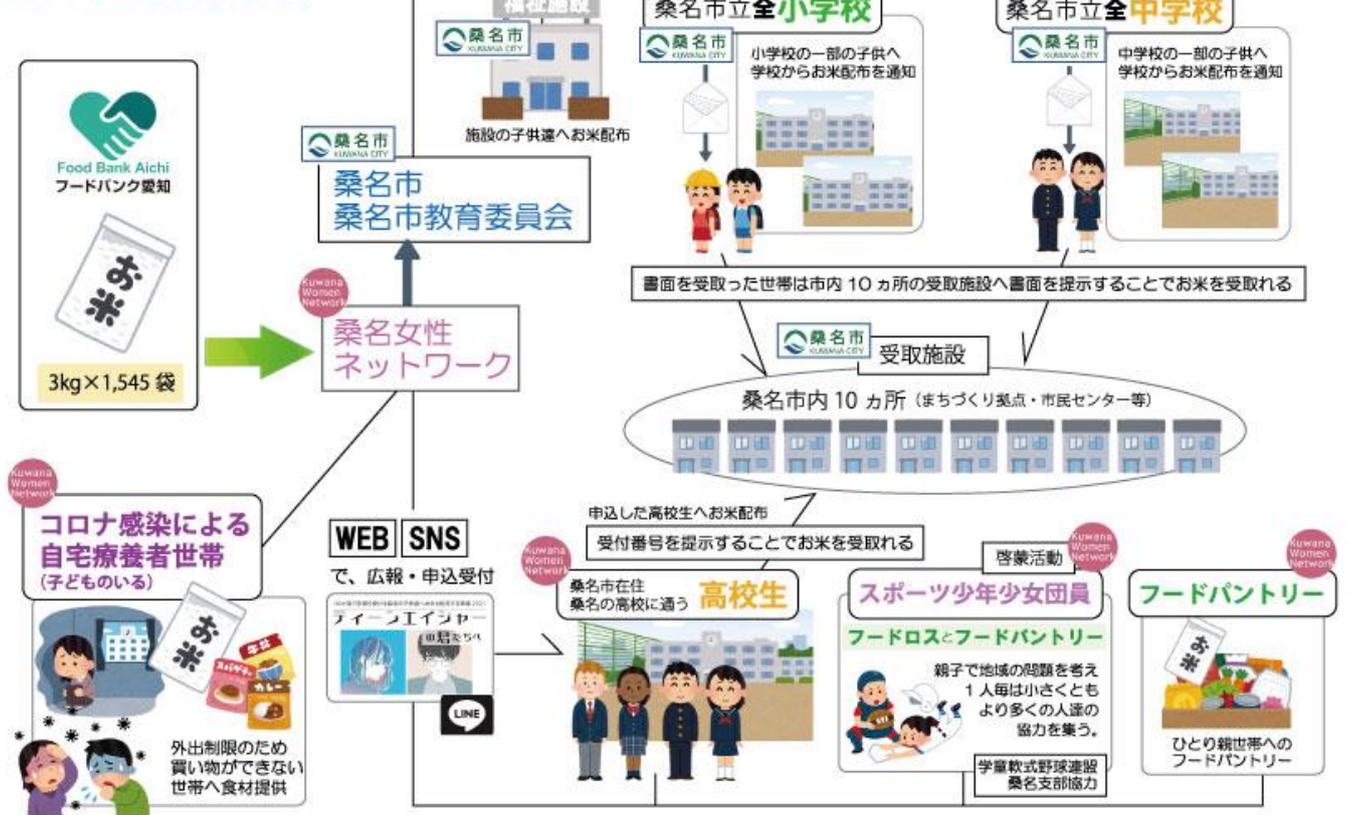


「支援が必要とされる世帯を幅広く見極め、効率よく配布する方法を」と、桑名市子ども総合センター様と桑名市教育委員会様が細やかに協議され、小学校・中学校との連携。また、地域の施設を活用した、非常に効率の良い配布の方法を構築されました。

まず、支援が必要とされる基準に合致した世帯を選出していただき、桑名市の小学校、中学校を通じて、封書で「お米の無償うけとり用紙」を配布。

その用紙をもって、指定期間内に、桑名市内指定の10ヵ所へ行けばどこでもお米を受け取れる、という〈身近な地域の集いの場〉で受け取る、という、非常に受取りやすい方法で配布されました。（参照：下記図②）

桑名市 配布の構図



第一回目のお米 4.6 トン配布は、桑名市様が非常に優れた配布システムを構築されたことにより、緊急的ではあったものの、支援が必要と想定された約 1200 世帯の内、約 700 名の方々が、自ら足を運んでお米を受取りました。

受け渡しを行った各施設の職員の方によると、訪れた方の「ありがたいです、本当に助かります。」「自分のことを気にかけてもらえることがすごく嬉しい。」「お米をもらえるって嬉しいね。」という母子の声を多く聞かれたそうです。

第一回目の事業では、〈フードロス削減＋フードパントリーによる支援活動〉の啓蒙活動も行い、一部のスポーツ少年団へもお米の配布とチラシによる啓蒙活動の広報を行いました。

この啓蒙活動を通じて、桑名女性ネットワークが毎月開催しているフードパントリーへ訪れる母子世帯が増えました。

またこの時期は、コロナ感染者、濃厚接触者の自宅待機時における生活支援システムが確立されておらず、自宅待機世帯への食料支援も行うことができました。



《結果》

第一回目の 4.6 トンのお米配布事業では、桑名市様と協力事業では、休校中の小学校・中学校を中心とした（支援が必要と思われる）子ども達、高校生、延べ約 700 名へ配布できました。さらに福祉施設や、ひとり親世帯へのフードパントリー、自宅療養世帯へ配布し、フードロス削減＋地域支援の啓蒙活動も行うことができました。

緊急事態宣言が発令され、学校給食がなく非常に苦しい時期に、お米を配布できたことは、不安が錯綜する中で「まずはお米さえあればなんとかなる。」という、子どもと日常生活に密接した気持ちに大きく響いたはずです。

桑名市教育委員会様・桑名市様による、前例の無い方法で、迅速なる、支援の必要な子どもの調査(※2)・書面配布、そして配布施設の調整と、重いお米の運搬や数の把握、といった細やかな整備は大変なご苦勞を頂きましたが、本当にスムーズな準備・実行でありました。

(※2) 緊急的な状況の中、既存の行政管理上、抽出された調査結果である。

しかし残念なことに、《支援が必要と思われる約 700 名の方にスムーズに配布できた》この方法は、一部のご意見により、継続ができない結果となりました。

桑名女性ネットワークのような市民団体が行う、市民活動・社会活動とは、利害関係により成り立つものではなく、事業性に乏しく風雨にさらされることはあるかもしれないけれども、そこには「よりよい地域社会になってほしい」という強い想いのもと、成り立っています。

一方向からの視点だけで短絡的に判断するのではなく、多面的に見て「では、私ならどうだろう?」、次に「社会が必要としているのは何だろう?」と考え、「子ども達も私も未来に希望を持てる、より良いわがまちを」という想いと共に本活動があることをご理解いただけることを願っています。

〈本事業で配布したチラシ〉

コロナ禍の今
君たちに
知ってほしい

フードパントリー

必要な人へ、食品を無料で配布する活動

子ども食堂やフードパントリーは、小さな子だけでなく、中学生、高校生、大学生、大人も利用できる。もし君が、「ちょっと心配だな」と気になっている子がいたら誘って一緒に行ってみよう。君自身にも、きっと何かへつながるはず。

桑名には、フードパントリーや子ども食堂を開催している団体が約 15 団体あるよ。

フードパントリー 桑名 検索

フードパントリーへの食品の流れ

余ってしまったり食べられないけど販売できない食品 → 食品をむだにしないための流れを作る機関 → 子ども食堂 → 食品を必要とする人や地域の子どもの糧など、支え合いの場へ

フードロス → フードバンク → フードパントリー

桑名のお母さん達がスタートした活動
アイクリエイト プロジェクト
地域の食品・三重のお米や野菜などを進んで食べることは、フードロスや、地球温暖化を防ぐことにつながるよ。

桑名女性ネットワークの支援活動
◎フードパントリーの定期開催
◎ひとり親世帯へのアパート運営
◎シェア・スペース運営

コロナ禍における桑名の子どもへのお米配布事業
桑名女性ネットワーク
協力/桑名市
NPO 法人フードバンク愛知

WEB サイト
LINE

アイクリエイト 桑名 検索

アイクリエイト・プロジェクトでは、個人・団体・企業様からの、食品やご支援の寄付を募集しております。皆様のおたたかご支援をよろしくお願ひ致します。

ティーンエイジャー

の君たちへ



君たちのまわりに、
「あの子は支援が必要かもしれない。」
と思う子がいる。
気づいている君は、何ができるだろう?

子ども食堂やフードパントリーは、中学生、高校生、大学生の君たちも利用できる。君自身も、また、君の気になっている「その子」を誘って行ってみよう。君にも、きっと何かへつながる 始まりとなる。

アイクリエイト プロジェクト

桑名女性ネットワークの支援活動
◎フードパントリーの定期開催
◎ひとり親世帯へのアパート運営
◎シェア・スペース運営

WEB サイト



コロナ禍における
桑名の子どもへのお米配布事業
桑名女性ネットワーク
協力/桑名市
NPO 法人フードバンク愛知

アイクリエイト 桑名 検索

■《コロナ禍の影響を受ける学生・外国籍の方々へ食品等を配布する事業 2021②》

第2回目／約3トンのお米・加工食品を配布 2021年12月6日(月)~12月12日(日)

<https://icreatework.net/foodpantry2021>

2021年10月以降、改めてNPO法人フードバンク愛知様より、約3トンのお米・加工食品をご提供いただけることになりました。

桑名市子ども総合センター様に、ご協力頂き、改めて食品の無償配布の対象者を検討。

当初よりWEBやSNSからの反応が大きかった高校生・大学生(院生)・専門学校生を対象とし、また、桑名市の外国籍の方々を対象とすることになりました。



2021 NO.2

コロナ禍の影響を受ける 学生・外国籍の方々へ

フードロス無くす活動を通じた

必要とされる方へ食品を配布する事業



1回目の配布対象であった小学生・中学生中心での配布から、2回目は、より年齢が高い子ども達・外国籍世代を対象としました。

(※フードパントリー等で、支援の必要とされる全ての世帯へ配布しています。)

2回目の配布は、前回の手法を多少活かしたものの、新たに「広く必要な方へ告知する手段」

を構築する必要があり、また時間も無いという悩ましい状況でした。



※両方が対象になる場合は、どちらかを選択

しかしながら、このような時には、できるだけ広く多くの人的ネットワークをいかすべきだと考え、地元企業様、桑名市議会議員様等、地元での人的ネットワーク、パワー、広報力の高い方々にご支援を仰ぎました。

外国籍の方々支援においては、地元の経営者の方々へお声掛けし、ベトナム、ブラジル

インドネシア、中国籍等の方々へ、企業様を通じて食品配布を行うことができました。

また、地元企業出身の愛敬重之 桑名市議に外国籍労働者の派遣を行う企業さんをご紹介いただきました。この企業さんを通じて、外国籍コミュニティの代表者(ブラジル)の方のネットワークにて食品配布を担っていただきました。

そして、倉田明子 桑名市議からは、役所、施設など各所へ赴いては、外国籍の方、学生達へお米等の無償配が確実に伝わるようにと細やかな広報整備を行って頂きました。

愛敬重之桑名市議



倉田明子桑名市議



桑名市子ども総合センターの担当者様が、改めて多方へ足を運んで配布時の段取りを整えて下さっている間に、桑名女性ネットワークでは、WEB や SNS を通じた広報を徹底いたしました。

第二回目の配布は、非常に短期間の広報で、WEB、SNSからの広報が主体ではありませんでしたが、約 550 名の方が、指定期間に指定施設へお米等の食品を受取にられました。

《結果》

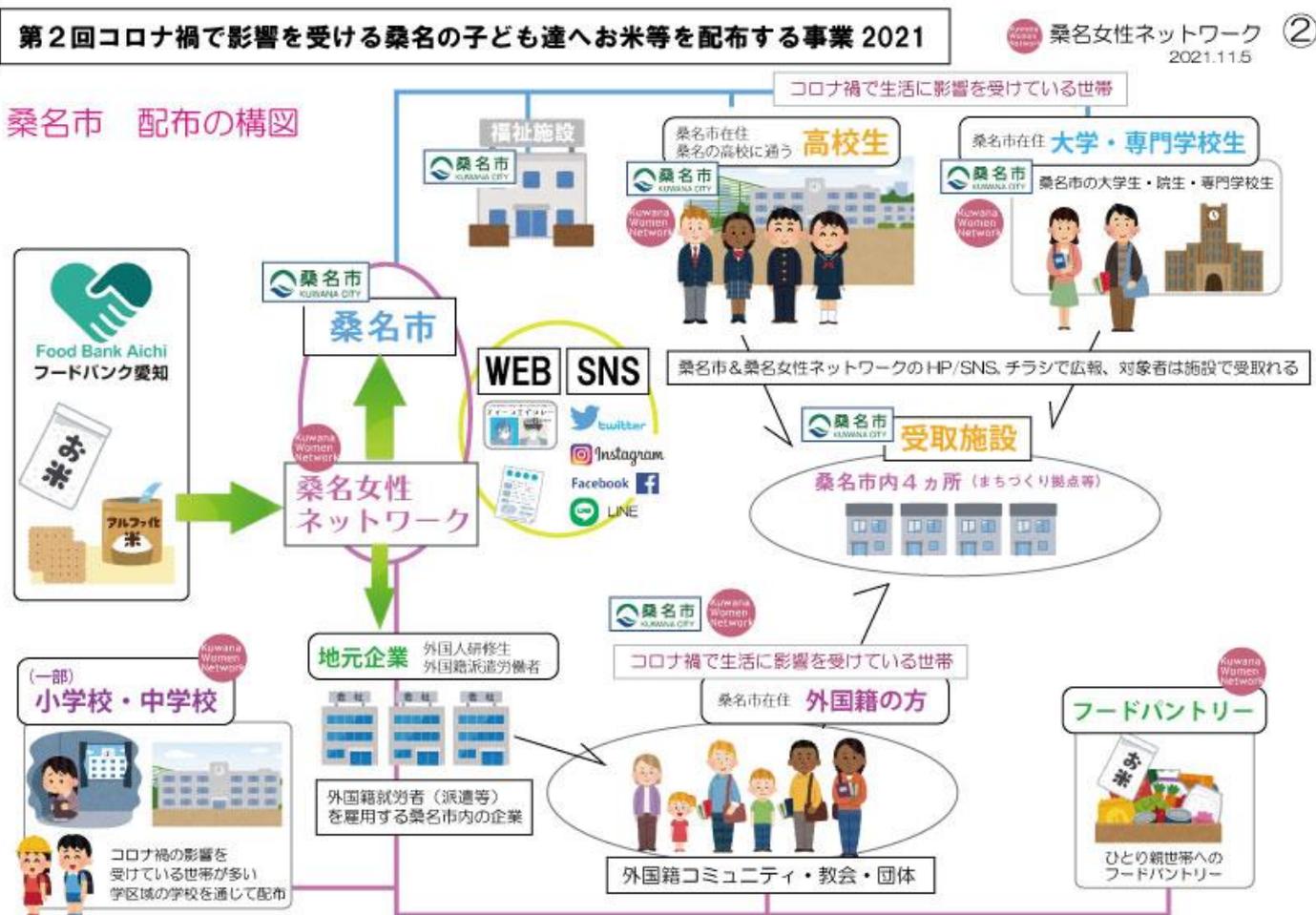
第二回目の配布事業では、指定期間（6 日間）に来訪され食品を受取った方の、のべ数（現在も一部対応中）は以下の通り。

- ・ 高校生・大学生（院生）・専門学校生／約 100 名
- ・ 外国人籍の方／約 450 名
- ・ 企業（外国人労働者を担う）／8 社



外国籍コミュニティとのつながりが創出された

第二回目の食品配布の流れは次の図②を参照。



桑名女性ネットワークでは、これまで行ってきたフードパントリーを通じて、「(大なり小なり) 今、支援が必要な方々の大半は、日時・場所が指定されたフードパントリーに行くことは難しいだろう」と感じていました。

今回の例は、大量の食品ロスとして放出された食品を、受け入れる団体（NPO法人フードバンク愛知）から、まとまった量で食品を受け入れ可能な地域の団体（桑名女性ネットワーク）へ提供し、その地域の行政（桑名市）と団体（桑名女性ネットワーク）が連携することで、幅広く細やかに、必要とする市民へ届けることができることが実証されました。

市民団体と、行政が協力・連携することで、新しい事例を生み出し、幅広い支援の方法を生み出す事業を確実に行うことができました。

伊藤なるたか桑名市長が、本事業の贈呈式に「これからが始まりです。」と話されました。今私達は、桑名に住み子どもを持つ「大人」として、理解し共感しあい、1人1人の支え合いが大きな繋がりが生み出すことの大切さを実感し、「ここからが始まり」だと感じています。

まさに「共生」の在り方を考える時です。

桑名女性ネットワークでは、本事業を通じて、支援からこぼれおちがちな10代の子ども達が「生活困窮」や「ヤングケアラー」等による家庭内負担を抱えつつも、複雑な社会環境からその実態が見えにくい世代であることから、大人からだけではなく、友人・仲間を通じて支援へつなげる、ティーンエイジャーによる「つながり支援」への啓蒙活動を行います。

桑名女性ネットワーク 代表 水谷美保

2021年12月28日